



成隣だより

平成27年 7月 1日
第 4 号
昭島市立成隣小学校
校長 長野 基

親子でコミュニケーション

校長 長野 基

早いもので1学期の登校日は今日を入れて13日となりました。成隣小の子供たちは、みんな元気に楽しく過ごせたようで、大変嬉しく思っています。

さて、今日7月1日は、午前8時59分60秒という時刻がありました。これは『うるう秒』と呼ばれるもので、地球の自転が常に同じ速度で回転していないことから生じる時刻の『ズレ』を調整するためのものです。数年に一度、6月末日（12月末日の年もある）に一秒だけ追加します。閏年は4年に一度、2月に一日追加されますが、うるう秒は何年に一度とは決まっていません。毎年0.9秒以内の『ズレ』があるので、毎年の積み重ねが1秒ぐらいになりそうな年にうるう秒を設定します。人間と同様、天体の動きにもムラがあるのがいいですね。改めて時間の大切さを意識して生活していきたいと思います。

時間の大切さと言えば、子供の成長過程においても意識することではないでしょうか。

先日仕事帰りに電車で座っていると、私の横にベビーカーを押して若いお父さんが座りました。ベビーカーの中ではかわいい1歳半ぐらいの赤ちゃんが何かを語っていました。お父さんは生返事でベビーカーを軽くポンポンと叩いていました。よく見ると、お父さんはスマホのゲームに夢中でした。立川から国分寺まで隣同士でしたが、そのお父さんは結局スマホから目を離すことはありませんでした。でも子供は無邪気に何かを語っていました。

皆さんも、最近よく目にする光景かも知れません。または、そのような経験がある方がいらっしゃるかも知れません。いかがなものでしょうか？

昨年度の保護者会でお話ししましたが、コミュニケーションの3要素を今一度思い出してください。言いたいことや気持ちが相手に伝わるためには、

①言葉（文章）を使い（7%）、②声のトーンを工夫し（38%）、③表情や身振り（55%）が合わさったときに100%伝わります。「あなたはよく頑張ってるね。」と言うときに、一本調子の沈んだ声で、目線も合わせずに暗い表情で言ったら、相手は“自分は頑張ったんだ。認めてもらえたんだ。”と思うのでしょうか？決して言葉通りには受け取らないでしょう。竹中直人という芸人が、笑った顔で怒るという芸をしますが、満面の笑みの印象が強すぎて怒られている気にはなりません。いかに表情などの見えた目が大事なのがよくわかりますね。

1学期が間もなく終わり、保護者の皆様には大変な夏休みが始まります。子供たちにとっては、何よりも楽しみな夏休みです。必ずしもどこかに出かけることだけが楽しみなわけではありません。親子でゆっくり話をする時間をもつことも楽しみの一つだと思います。お互いの顔を見ながら、相づちを打ちながら、いろいろな話題を共有してください。「忙しいから後にして。」という言葉は使わないでください。その時には「5分待っててね。それから聞くからね。」ぐらいは言えますよね。

子供にとって、親は一番身近な目標であり、一番信頼する人です。今という時間を大切に、親子の絆が今まで以上に深まることを期待しています。

